

## プロジェクト課題活動実績

### 課題名：需要に応える農産物の生産振興と産地育成

岩国農林水産事務所農業部      チーム員：増富和恵、吉賀千歌子、杉富士子、  
迫村竜也、中村早紀、陶山紀江、青木博幸

#### <活動事例の要旨>

岩国地域の生産を担う新たな人の確保・育成に向けて、「確保・育成体系」を整理し、関係機関との協議、役割分担を行った。またJA直売所の売上5億円達成に向けた生産量拡大のしくみづくりや共販品目を中心とした産地育成に向けて取組を強化した。

#### 1 普及活動の課題・目標

岩国地域では、農業者の高齢化等により平成22年から平成27年にかけて農業就業人口が22%、経営耕地面積が13%減少している。

このような中、平成30年3月に農業振興の拠点として「FAM'Sキッチンいわくに」（以下、「JA直売所」という。）が設置され、出荷会員数、販売額とともに着実に伸びている。しかし、目標の販売額5億円を達成し、かつ継続していくには、新たな出荷者の確保・育成と、さらなる出荷量の拡大や販売強化が必須である。

一方、市場出荷が中心のJA共販については、営農塾等により新規栽培者が確保されている品目もあるが、それ以上に高齢化で出荷者が減少し、産地は縮小しており、市場等の需要に応えられていない。また、70代以上が中心となっている部会も多く、今後、さらに部会員や出荷量の急激な減少により、産地の維持も懸念される。

そこで、生産を担う新たな人の確保・育成により、JA直売所や市場の需要に応える農産物の生産を拡大し、産地の育成を図る。

#### 2 普及活動の内容

##### (1) 生産を担う新たな人の確保・育成

- ・人の掘り起こし・育成方法について、これまでの取り組みを含め「確保・育成体系」として整理した。これを基に、関係機関と確保・育成の方針、役割分担を協議した。
- ・農業初心者用の研修として新たに位置づけた「お試し研修」は、「野菜栽培チャレンジ研修会」として実施した。また、JA各部会が毎年開催する営農塾は、令和2年度はコロナ禍で実施することができなかった。令和3年度は感染防止対策を施した上で実施した。りんどうでは、新規栽培者を対象とした栽培体験講座を開始した。

##### (2) 出荷量拡大や販売強化等によるJA直売所の売上向上

- ・5億円達成に向けたパワーアップ会議（以下、「パワーアップ会議」という。）は毎月開催し、野菜や加工品出荷者の出荷量拡大、さらに意欲ある出荷者をフォローするしくみを検討した。
- ・野菜出荷者の出荷量拡大への支援は、時期別の作付けを推進する「作付けの手引き」の作成を支援した。出荷者向けの講習会は、コロナ禍のため実施することができなかった。
- ・加工品出荷者に対しては、昨年度試行した贈答用販売のしくみをステップアップし、夏ギフトと冬ギフトの本格的な販売に向けて支援した。また、贈答用商品づくりの留意点を学ぶための研修会を実施した。

- ・意欲ある野菜出荷者のフォローアップに向け、しくみづくりに取り組んだ。  
まず、昨年度、選抜した育成モデル農家2戸を対象に、現状と課題を整理し、巡回指導などJAと農業部が連携した効果的なフォローアップ体制や手法を検討した。次に、販売額の目標達成に向けて育成したい出荷者の姿を明確にするため、出荷者の販売品目や金額、年齢等を整理し、さらに毎年実施している出荷者アンケート結果等を含めて検討した。これまでの結果をもとに次年度以降の新たなフォローアップ体制を検討した。
- ・意欲ある加工品出荷者として2グループを支援対象とし、JA直売所との意見交換を実施した。直売所の需要がある品目や、出荷者サイドで増量可能な品目や対応可能な曜日等について意見交換した。これを基に、グループは出荷量拡大や製造体制について検討した。
- ・食農体験交流に係る体験料の設定や体験実施に向けた役割分担を検討し、JA岩国統括本部が主体的に活動支援に取り組むこととした。また、体験の実施主体となるJA女性部や青壮年部、生改連等が次年度に向けた計画を検討した。

### (3) 市場の需要に応える産地の育成

#### ア 共販品目の重点化、新規品目の選定と生産力の向上

- ・共販品目の重点化として、わさび、くり、りんどう、夏秋トマトの産地育成、また、新規品目のアスパラガスの施設導入について支援した。

#### (ア) わさび

- ・農林総合技術センター（以下、農林総セとする。）との連携により、良質な超促成苗の生産試験を実施した。また、わさびと組み合わせる候補品目としてきゅうりを選定し、試験ほの設置により課題を抽出した。
- ・花わさびの出荷については、従来、京阪神への出荷が主体であったが、地元への販売を検討した。また品質低下防止や後作へのスムーズな移行等を目的に加工用（葉茎）出荷開始時期の前進化について検討した。

#### (イ) くり

- ・美和地区において、カットバック労力補完体制整備に向け、講習会の実施や改植の推進を図った。また、使用できなくなるヨウ化メチル燻蒸代替方法の試験や、追肥の労力軽減に向けた緩効性肥料施肥体系試験を実施した。

#### (ウ) りんどう

- ・新規栽培者の育成と確保を目的にりんどう栽培講座を開始した。
- ・既存生産者に対し、中生や晩生種等、新たな作型や品種構成の提案を行い、規模拡大への誘導を図った。地域にあった品種の選定や遮光技術の実施について実証ほを設置し、部会で検討した。
- ・販路拡大に向け、既存市場の聞き取りを行い、販売先を検討した。

#### (エ) 新規品目の選定と生産拠点等の導入

- ・新規品目としてアスパラガスに取り組むことになり、新規就業者等産地拡大促進事業を活用した栽培施設の導入について、仕様の検討等を支援するとともに、施設設置前の排水対策や定植に向けた準備等を指導した。また次年度に向けて、品目の検討や事業導入等の調整を行った。

#### (オ) 夏秋トマト

- ・単収向上に向けた栽培検討会の開催と巡回指導を行った。また荷姿の変更や出荷先について検討を行った。

イ 給食出荷に向けた生産体制の整備と生産量の拡大

(ア) 給食出荷に向けた生産体制の整備と生産量の拡大

- ・給食用野菜について、対象品目の生産計画から出荷計画、納入実績、納入までの工程を確認した。新たにハクサイの生産から納入までの試行を行った。
- また、JAの給食部会設立に向け、課題を整理した。

(イ) タマネギの生産出荷計画の作成・見直し

- ・タマネギ大規模農家等への課題に対する対策検討や栽培面積の拡大推進、排水対策、適期管理に向け重点巡回指導を行った。また、新規栽培者を確保するため、部会員からの声掛け等により勧誘を行った。

### 3 普及活動の成果

(1) 生産を担う新たな人の確保・育成

- ・関係機関に確保・育成の方針と体系が了承され、役割分担ができた。
- ・「チャレンジ研修」は、販売目的で生産を開始する者を掘り起し、確保する場とし育成体系の入口として位置づけた。今年度受講した9人は、次のステップとなる入門塾受講に意欲を示した。
- ・わさび営農塾を6人、くり営農塾を7人が受講し各部会へ誘導することにより来年度の新規栽培者を確保することできた。
- ・りんどうでは、新規栽培者育成・確保に向け、りんどう栽培体験講座を開始し、1名が受講中である。JA直売所では、出荷者募集、出荷者講習会、意欲ある野菜や加工品出荷者へのフォローアップ体制ができつつある。

(2) 出荷量拡大や販売強化等によるJA直売所の売上向上

- ・時期別の作付け推進のために作成した「作付けの手引き」は、品目の紹介を中心としたものから、出荷者が活用しやすいよう内容を見直した。出荷者の反応を確認して、バージョンアップしていくこととした。
- ・加工品出荷者の取組は、夏季と冬季の贈答用商品の販売を支援した。また、冷蔵商品を取り扱う販売体制を整備し、取扱商品も増加する等、贈答用商品の販売に向けたしくみが整った。
- ・意欲ある野菜出荷者へのフォローアップに向け、モデル農家を設定し、巡回指導を行った。この結果を基に、フォローアップする対象者や人数、指導体制、内容、育成方法について検討することできた。現状のJA営農指導員をモデル対象にはりつける方法は、現状の体制下では困難との結論に至り、次年度からは、「作付けの手引き」を活用した講習会を中心とした指導体制で対応することとした。
- ・意欲ある加工品出荷者として位置づけた2グループでは、出荷量が増加した商品も出てきた。次年度に向け、販売拡大の計画を作成した。
- ・これまで実施してきた体験交流のしくみを見直し、JA岩国統括本部が主体的に活動支援することとした。また、実施主体となるJA女性部や青壮年部、生改連の次年度の活動計画案を作成することができた。

(3) 市場の需要に応える産地の育成

ア 共販品目の重点化、新規品目の選定と生産力の向上

(ア) わさび

- ・良質な超促成苗の生産試験により、一定の成果が得られた。さらに、わさびときゅうりの複合経営の課題を整理することができた。

(イ) くり

- ・老木化対策のカットバックに係る労力不足に対応するため、美和地区で労力補完

体制の検討を開始した。また、貯蔵技術として、ヨウ化メチル燻蒸の代替技術を試行し、改善点が整理された。施肥労力軽減として行った緩効性肥料の試験結果が良好であったことから、導入を検討していくこととなった。

(ウ) りんどう

- ・新規栽培者の育成と確保を目的として実施したりんどう栽培講座に新規栽培者1名が参加した。
- ・既存生産者に対して新たな作型や品種構成の提案を行った結果、新たな作型を導入する生産者を1名確保することができた。
- ・販路については、県外への販路拡大は当面見合わせ、一定の面積が確保されるまでは作型分散を図りつつ、県内市場へ出荷することとした。

(エ) 新規品目の選定と生産拠点等の導入

- ・アスパラガスハウス 11.4a が整備され、新規に栽培に取り組む農家3戸が令和4年5月の定植に向けて準備を進めている。

(オ) 夏秋トマト

- ・平均単収は病害虫等により前年並みとなったが、栽培技術は向上しつつあり、次期作に向けた個別の課題と対策が整理された。

イ 給食出荷に向けた生産体制の整備と生産量の拡大

(ア) 給食出荷に向けた生産体制の整備と生産量の拡大

- ・対象品目の生産計画から出荷計画、納入までの工程を確認し、課題を整理した。新たな対象品目として、ハクサイで実施できる体制が整備されつつある。

(イ) タマネギの生産出荷計画の作成・見直し

- ・タマネギの育苗や定植、病害虫防除等の適期作業を促すことができた。また勧誘により2名が新たに栽培を開始することとなった。

## 4 今後の普及活動に向けて

(1) 生産を担う新たな人の確保・育成

- ・作成した「確保・育成体系」をもとに、これから農業を始める人に向けたチャレンジ研修等をはじめ、各部会への誘導等、継続した掘り起こしや育成に取り組む。JA直売所では、出荷者募集や講習会、意欲ある出荷者へのフォローアップ体制を保って育成を図る。

(2) 出荷量拡大や販売強化等によるJA直売所の売上向上

- ・「作付けの手引き」は、出荷者の意見を踏まえた内容に変更しつつ、講習会とあわせて活用する。
- ・加工品出荷者の出荷量拡大、販売力強化に向けた取組の課題として情報発信方法や魅力ある商品づくりが残っており、研修会等の開催を通じてフォローアップする。
- ・意欲ある野菜出荷者へのフォローアップやステップアップ支援については、講習会を中心として営農指導員と連携して進める。
- ・意欲ある加工品出荷者に位置づけている2グループへの支援を継続し、製造体制の改善や出荷量の増加を図るとともに、他グループへの波及を目指す。
- ・体験交流のしくみづくりに向け、コロナ禍でも実施できる内容を検討し、実施主体の活動を支援する。

(3) 市場の需要に応える産地の育成

ア 共販品目の重点化、新規品目の選定と生産力の向上

(ア) わさび

- ・農林総セと連携し、良質な超促成苗の供給に向けた技術を確立するとともに、茎

葉の増収に向けた栽培技術の再構築を図る。また、わさび生産者の所得向上を目的とし、複合経営モデル案を作成し、提案する。

(イ) くり

- 美和地区でのカットバックの労力補完体制を整備し、稼働させるとともに、国庫事業を活用した改植を推進する。また、農林総セと連携し、ヨウ化メチル燻蒸代替方法について引き続き検討する。

(ウ) りんどう

- 新規栽培者の育成・確保を進めるとともに、既存生産者の規模拡大、安定生産技術の確立に向け、定期的な巡回を実施し、技術指導を行う。また、販売戦略について部会で検討する。

(エ) 新規品目の選定と生産拠点等の導入

- アスパラガスについては、栽培講習会や定期的な巡回を実施し、新規栽培者3戸の早期技術取得を支援する。
- 産地の育成・拡大に向けて生産拠点施設等の事業導入を支援する。

(オ) 夏秋トマト

- 引き続き、栽培検討会や巡回を実施し、栽培技術を確立させる。

イ 給食出荷に向けた生産体制の整備と生産量の拡大

(ア) 給食出荷に向けた生産体制の整備と生産量の拡大

- 納入のしくみを定着させるため、タマネギとハクサイの生産から納入までの体制を確立させる。また、JA給食部会設立に向けて、引き続き支援する。

(イ) タマネギの出荷計画の作成・見直し

- 引き続き、大規模農家等の拡大推進や新規栽培者の確保に努める。ポイントを絞った巡回指導の実施による安定供給と出荷量拡大を図る。

新たな人の確保・育成方法について

令和3年5月28日

1 確保・育成の体系と関係機関の役割分担	掘り起し	育成	取組	対象	担当	予算等
			野菜栽培チャレンジ研修会	野菜等の栽培に興味のある人、やってみたい人(市場や直売所への出荷・販売を前提) 募集範囲: JA 岩国統括管内在住者	○JA、農業部、市(主に広報)	R3は普及協議会
			FAM'Sの出荷者募集(説明会)	FAM'Sへの出荷希望者	○FAM'S、JA	JA
			各部会の勧誘	共販品目の栽培希望者(一部会に入る人)	○JA、部会、農業部	JA
			入門塾(R4野菜)	栽培を始めたい人、初心者 募集範囲: JA 岩国統括管内在住者	○JA、農業部、市	JA
			営農塾(くり、わさび)	該当品目の生産、出荷希望者 募集範囲: 県内在住者	○JA、農業部、市	JA
			FAM'Sの講習会	FAM'Sの出荷者	○FAM'S、JA 農業部	JA
			各部会の講習会	部会員	○JA、農業部	JA



野菜栽培チャレンジ研修会

2 人の掘り起し〜出荷者への流れ



確保・育成体系



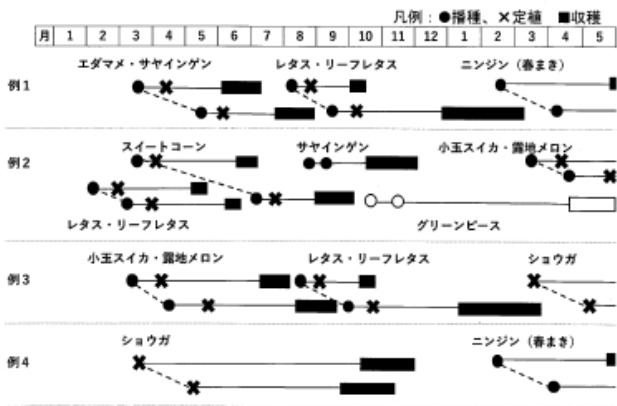
意欲ある野菜出荷者のフォローアップ  
年2回の巡回指導

(令和3年12月)  
**FAM'S キッチンいwakに 作付の手引き**  
 1月～4月に播種または植え付けするもの  
 ～販売額5億円に向けて～

おかげさまで5億円売上目標まであと少し！のところまでできました。引き続き安全・安心・新鮮な農産物の出荷にご協力をお願い致します。さて、この手引きの作成も3年目となり今までは少し内容を変更し不足しがちな野菜中心の作型例をメインに作成いたしました。個々の野菜の特徴や栽培方法は前回までの手引きや栽培簿を参考に栽培してみてください。また、自身の得意野菜や苦手野菜を考慮し、自由に品目を変更しながら不足野菜の栽培にチャレンジしてみてください。山口県 NO.1 の直売所を目指して！今後もFAM'S の利用をお願いします。(JA 山口県岩国統括本部 FAM'S キッチンいwakに)

**FAMS スタッフお勤めの作付体系 例**

FAM'S が作付けをお勧めする品目を組み合わせ、年間作付体系の例をいくつかご紹介します。計画をお考えの際に、参考にしてください。※お勧め品目は裏側に掲載しています。※地域により適する品種や作型、トンネルの必要性等が異なります。栽培層で確認してください。



**栽培のポイントアドバイス**

～アンケートでご質問の多かった雑草対策について～

- 除草のタイミング ⇒ 雑草が「種をつける前」に除草する
- ・ 土の中には雑草の種がたくさん眠っており、条件が良くなると芽を出して生長します。一度きれいに除草しても、後から後から雑草が生えてくるのはこれが原因です。「新しく種を増やさない、落とさない」ために「種をつける前に除草する」ことが重要。
- 除草剤の使い方 ⇒ 目的と登録内容に応じて使い分ける
- ・ 除草剤には「茎葉処理剤」と「土壌表面処理剤」があります。どの雑草に効くか、いつ使うか、使い方等は薬剤によって異なります。事前にラベルを確認し、効果的に使いましょう。

作付けの手引き



わさび複合品目きゅうりの目合わせ



贈答用商品づくりを学ぶ研修会



冬ギフトポスター



夏秋トマトの巡回指導